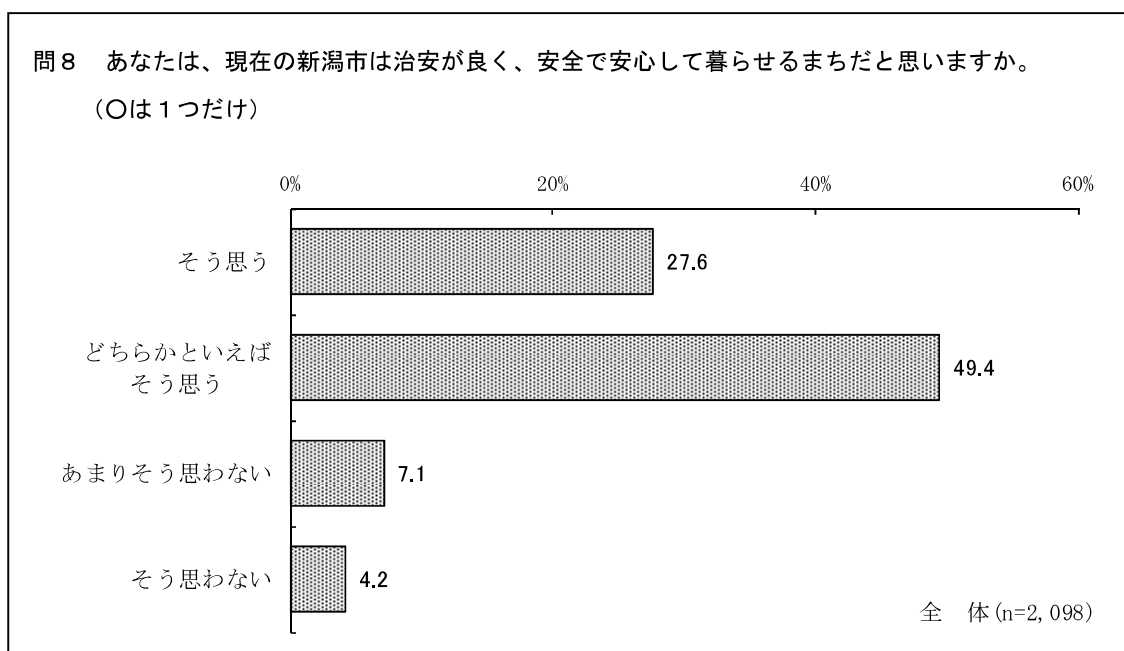


1. 地域の防犯について

(1) 新潟市の治安状況に対する認識



—— 8割近くが新潟市を治安が良く、安全・安心なまちと認識 ——

【全体結果】

現在の新潟市が、治安が良く、安全で安心して暮らせるまちであるかどうかについては「そう思う」(27.8%)、「どちらかといえばそう思う」(49.4%)で両者を合計した「そう思う」計(77.0%)が8割弱を占める。一方、「あまりそう思わない」(7.1%)と「そう思わない」(4.1%)を合計した「思わない」計は1割強(11.3%)となっている。

【属性別結果】(図 1-1 参照)

① 区別

「そう思う」の割合は、西蒲区(32.9%)、西区(32.8%)で高く、「そう思う」計でも西区(82.8%)が最も高くなっている。また、「そう思う」計は、南区(82.5%)、西蒲区(80.2%)も8割強と高くなっている。

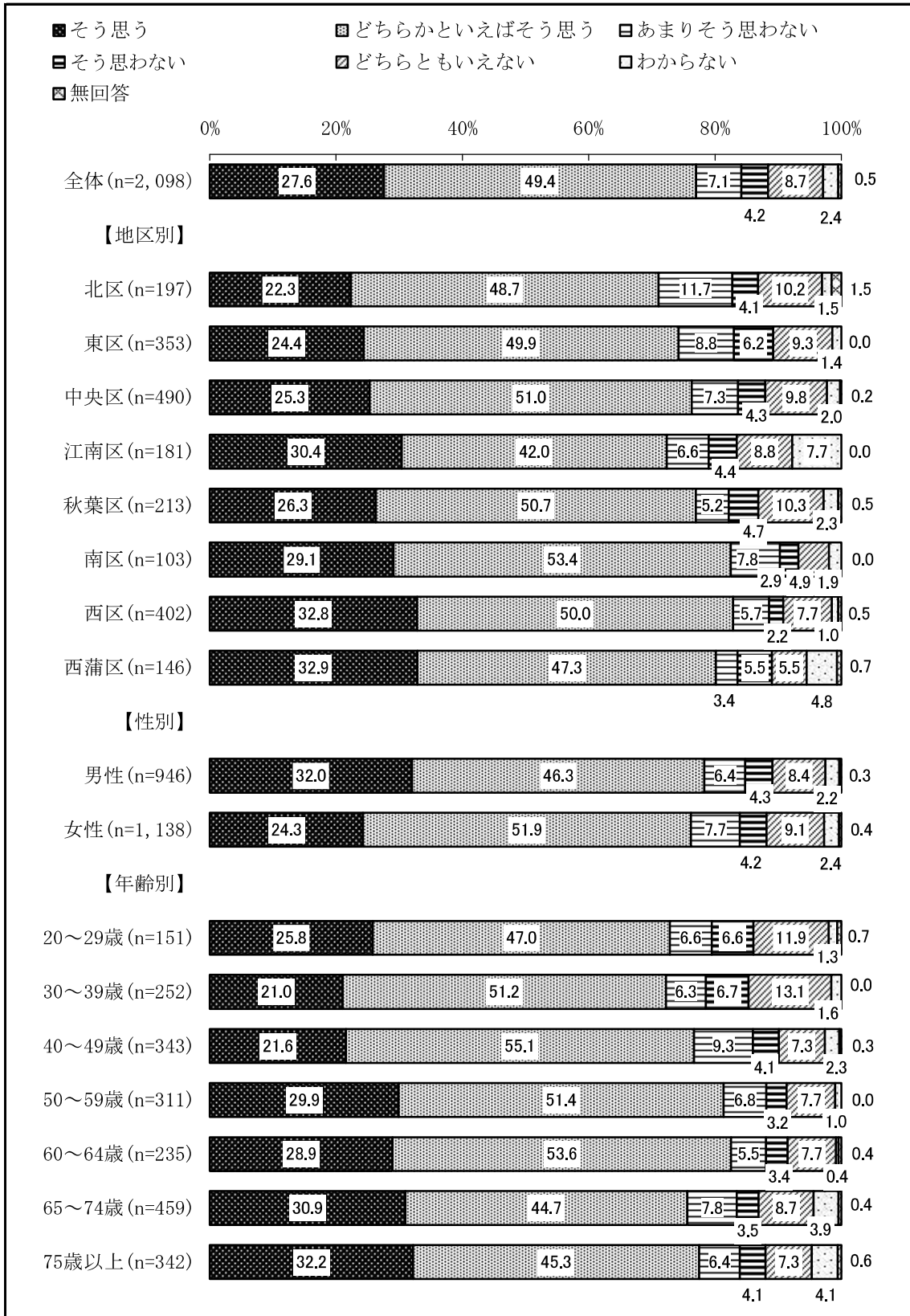
② 性別

「そう思う」の割合は、男性(32.0%)の方が女性(24.3%)よりも高くなっている。

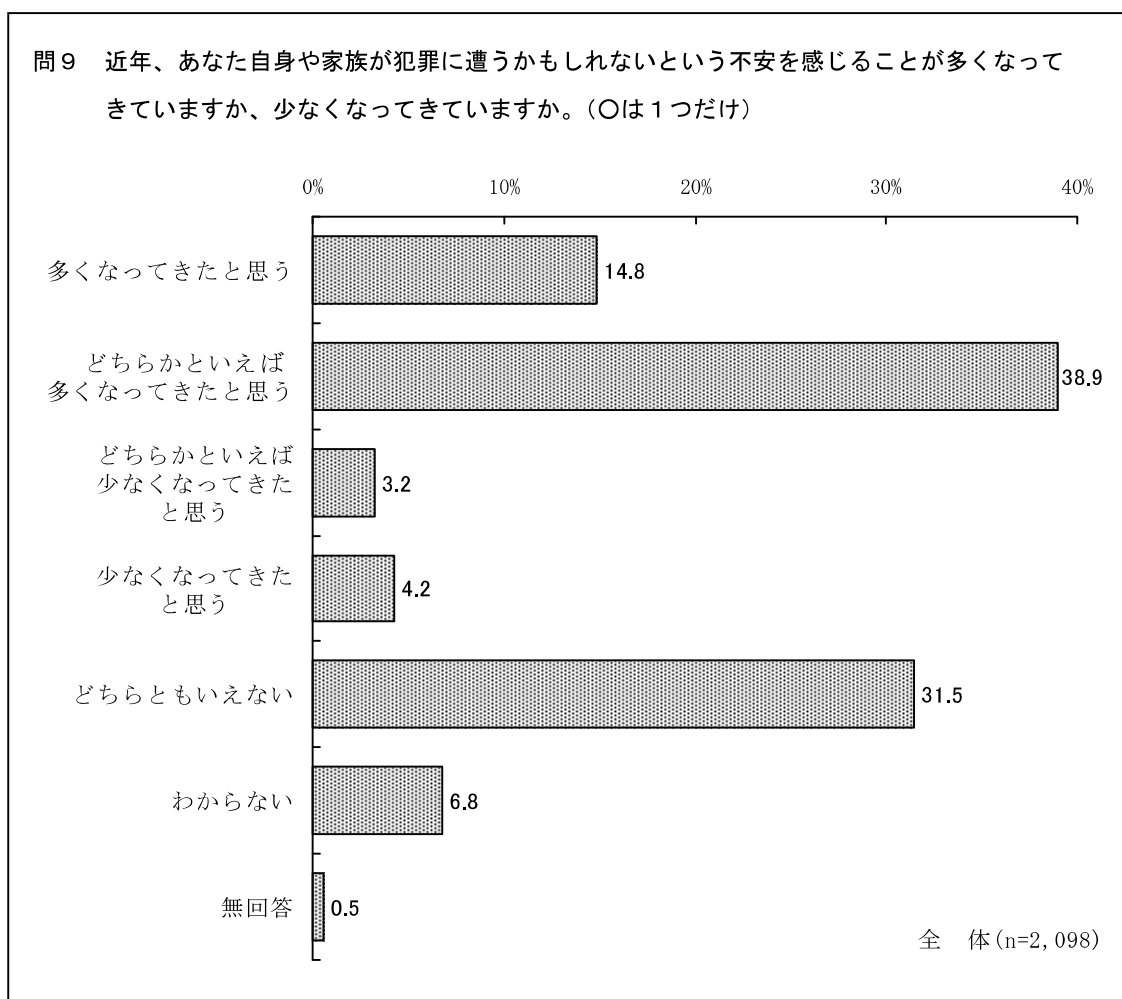
③ 年齢別

「そう思う」計の割合は、50代(81.3%)と60代(82.5%)で高くなっている。

図1-1 新潟市の治安状況に対する認識（地区別／性別／年齢別）



(2) 犯罪に遭うことへの不安感



— 犯罪に遭う不安を感じるものが「多くなってきたと思う」が5割強 —

【全体結果】

近年、自分が犯罪に遭うかもしれないという不安については、「多くなってきたと思う」(14.8%)、「どちらかといえば多くなってきたと思う」(38.9%)で両者を合計した「多くなってきたと思う」計が5割強(53.7%)である。一方、「どちらかといえば少なくなってきたと思う」(3.2%)と「少なくなってきたと思う」(4.2%)を合計した「少なくなってきたと思う」計は1割弱(7.%)となっている。

3割強(31.5%)が「どちらともいえない」と回答し、「わからない」は6.8%となっている。

【属性別結果】（図 1-2 参照）

①地区別

「多くなってきたと思う」計は、南区（42.7%）で低く、4割程度にとどまっている。

②性別

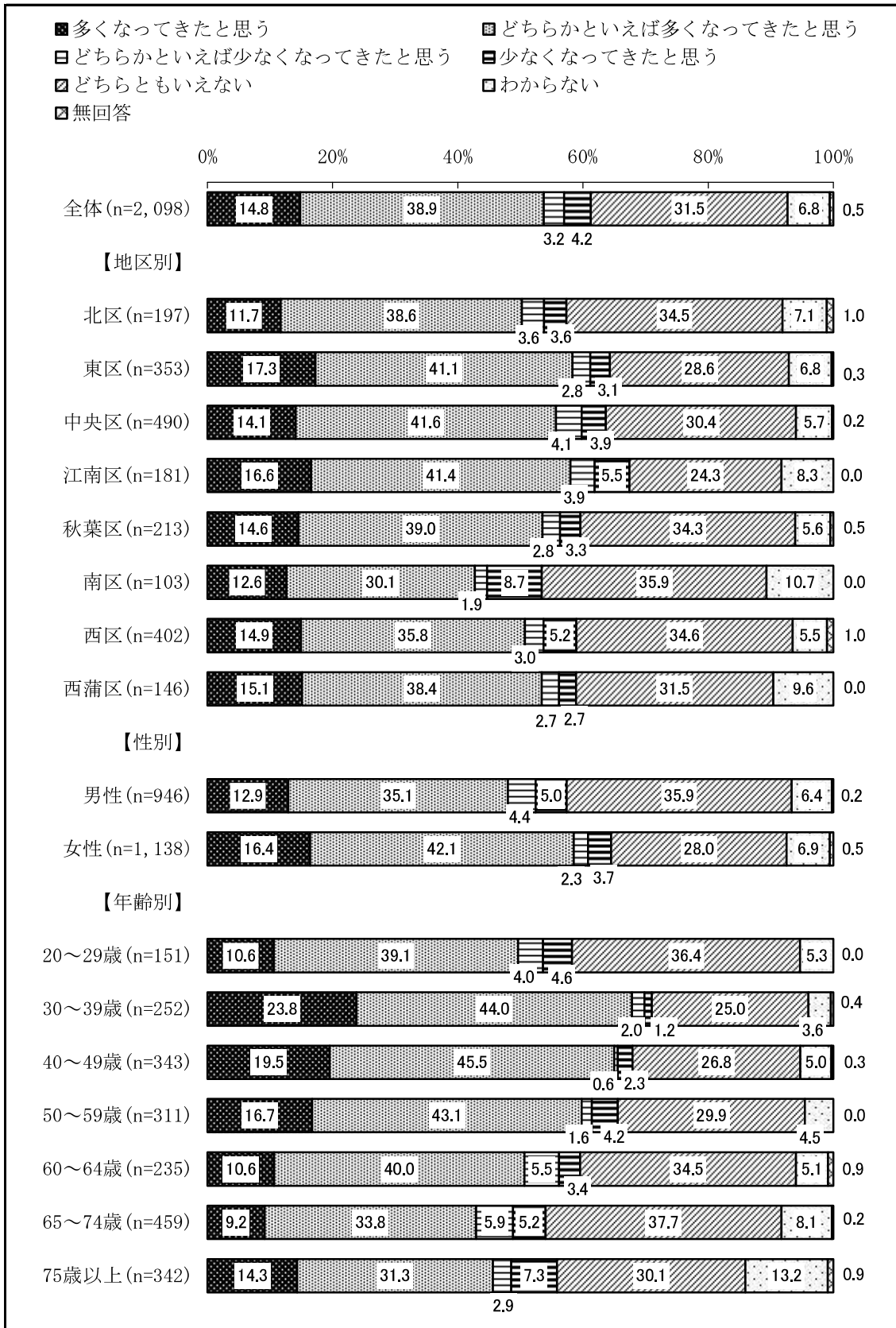
「多くなってきたと思う」の割合は、女性（58.5%）の方が男性（48.0%）よりも高くなっている。

③年齢別

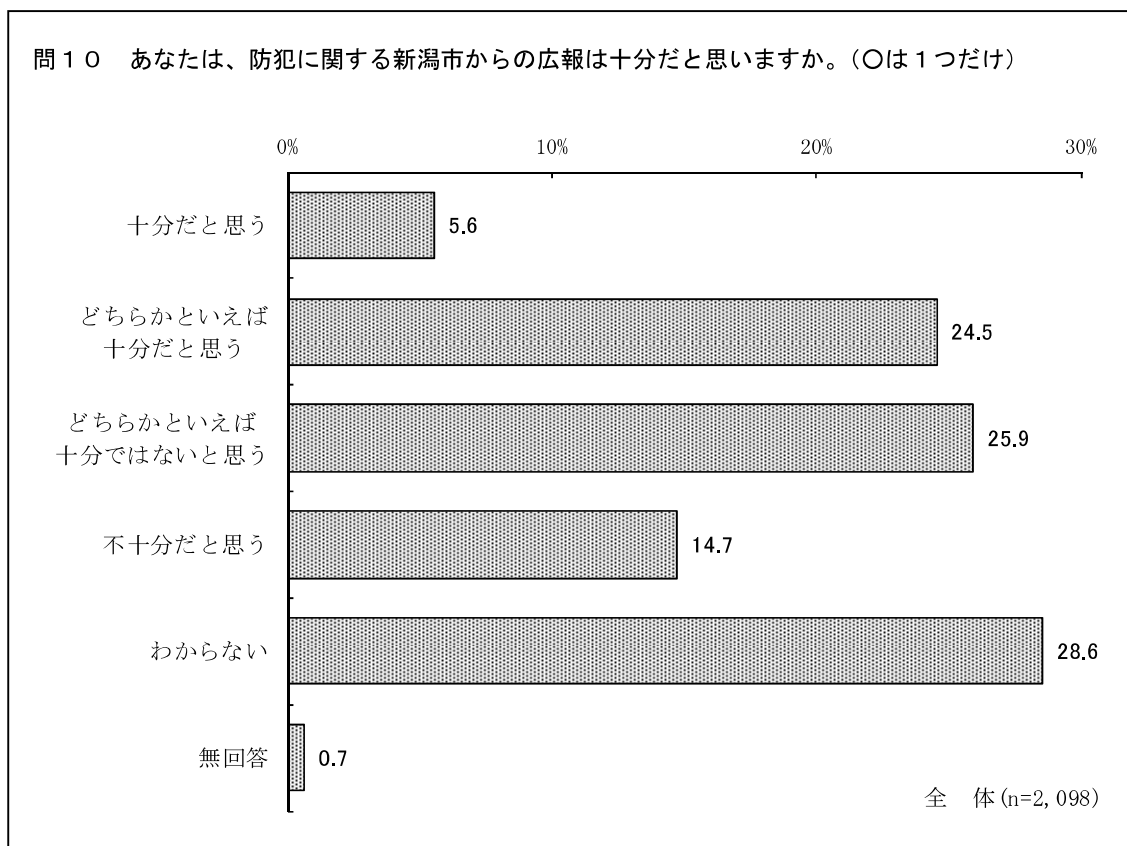
「多くなってきたと思う」計の割合は、30代（67.8%）、40代（65.0%）で高く、6割を超えている。

「わからない」の割合は、75歳以上（13.2%）が最も高くなっている。

図1-2 犯罪に遭う可能性に対する不安（地区別／性別／年齢別）



(3) 防犯に関する新潟市からの広報について



—— 4割が「十分ではないと思う」、3割が「十分だと思う」と回答 ——

【全体結果】

犯罪に関する新潟市からの広報については、「十分だと思う」(5.6%)、「どちらかといえ
ば十分だと思う」(24.5%)で両者を合計した「十分だと思う」計が3割(30.1%)である。
一方、「どちらかといえは十分ではないと思う」(25.9%)と「不十分だと思う」(14.7%)
を合計した「十分ではないと思う」計は4割(40.6%)となっている。

また、「わからない」が3割弱(28.6%)となっている。

【属性別結果】（図 1-3 参照）

① 区別

「十分ではないと思う」計は、北区（45.1%）でやや高くなっている。

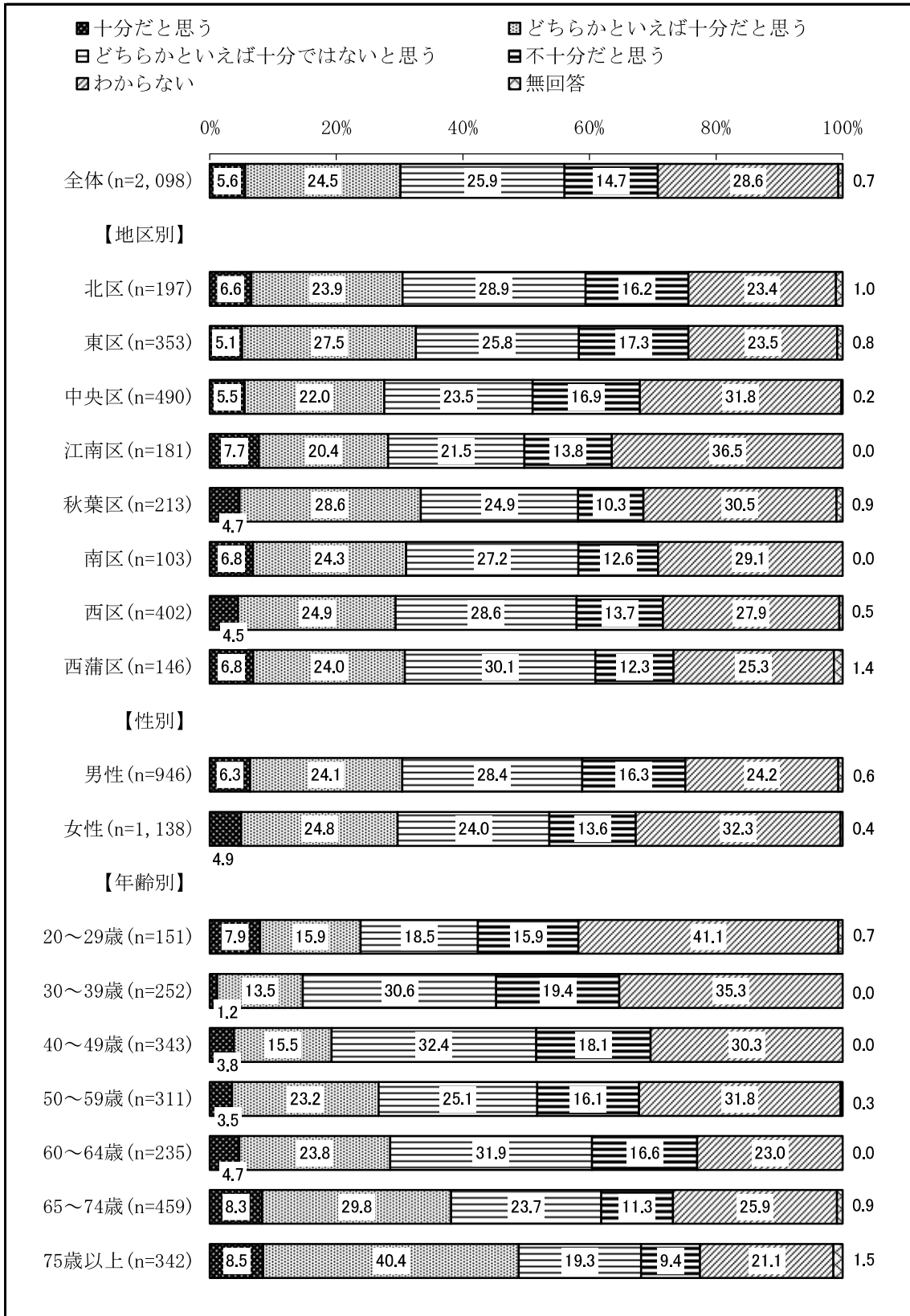
②性別

「十分ではないと思う」の割合は、男性（44.7%）の方が女性（37.6%）よりも高くなっている。

③年齢別

「十分だと思う」計の割合は、65歳以上で高く、75歳以上（48.9%）では半数弱を占めている。一方、「十分ではないと思う」の割合は、30代（50.0%）、40代（50.5%）で高く、半数程度になっている。

図1-3 防犯に関する新潟市からの広報について（地区別／性別／年齢別）

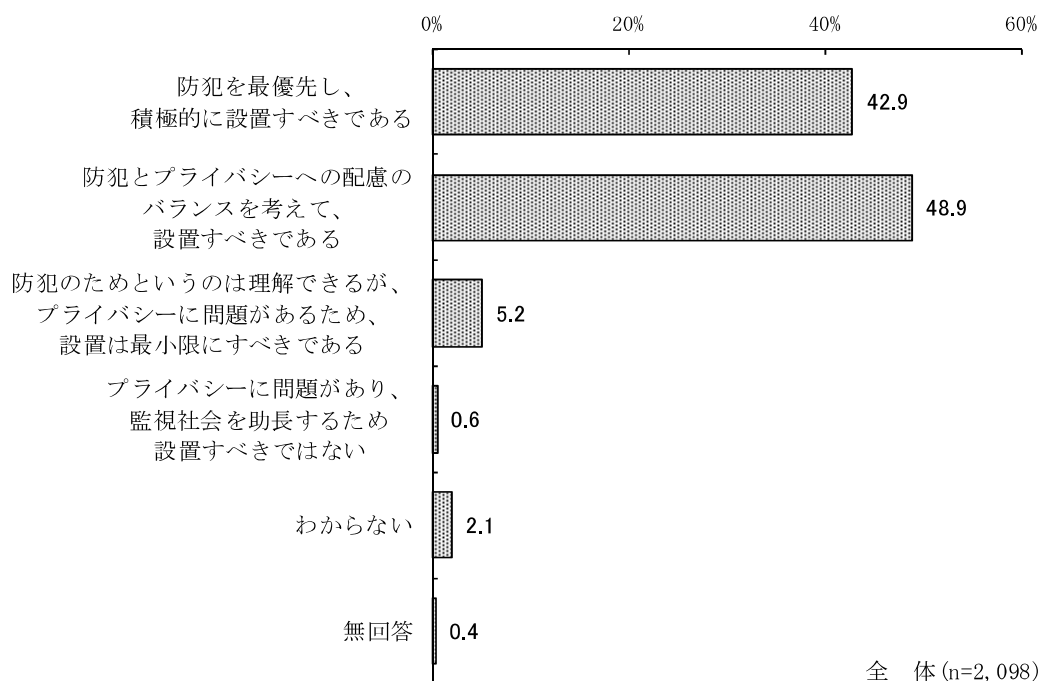


(4) 「防犯カメラ」の設置についての考え

問11 「防犯カメラ」の設置について、あなたはどのように思いますか。

※特に道路、駅、広場などの街頭に、防犯を目的として設置するもの

(〇は1つだけ)



—— 防犯カメラの設置に前向きな考えへの賛成意見が多数を占める ——

【全体結果】

「防犯カメラの設置」については、「防犯とプライバシーへの配慮のバランスを考えて、設置すべきである」が5割弱（48.9%）で最も高く、これに「防犯を最優先し、積極的に設置すべきである」が4割強（42.9%）が続いている。

一方、「防犯のためというの理解できるが、プライバシーに問題があるため、設置は最小限にすべきである」（5.2%）は少なく、「プライバシーに問題があり、監視社会を助長するため設置すべきではない」（0.6%）はきわめて少ない。

【属性別結果】（図 1-4 参照）

①地区別

全体結果で最も割合の高かった「防犯とプライバシーへの配慮のバランスを考慮して、設置すべきである」については、西区（51.7%）の割合が最も高く、中央区（46.9%）の割合が最も低くなっている。

「防犯を最優先し、積極的に設置すべきである」の割合は、中央区（46.3%）が最も高く、西蒲区（34.9%）が最も低くなっている。

②性別

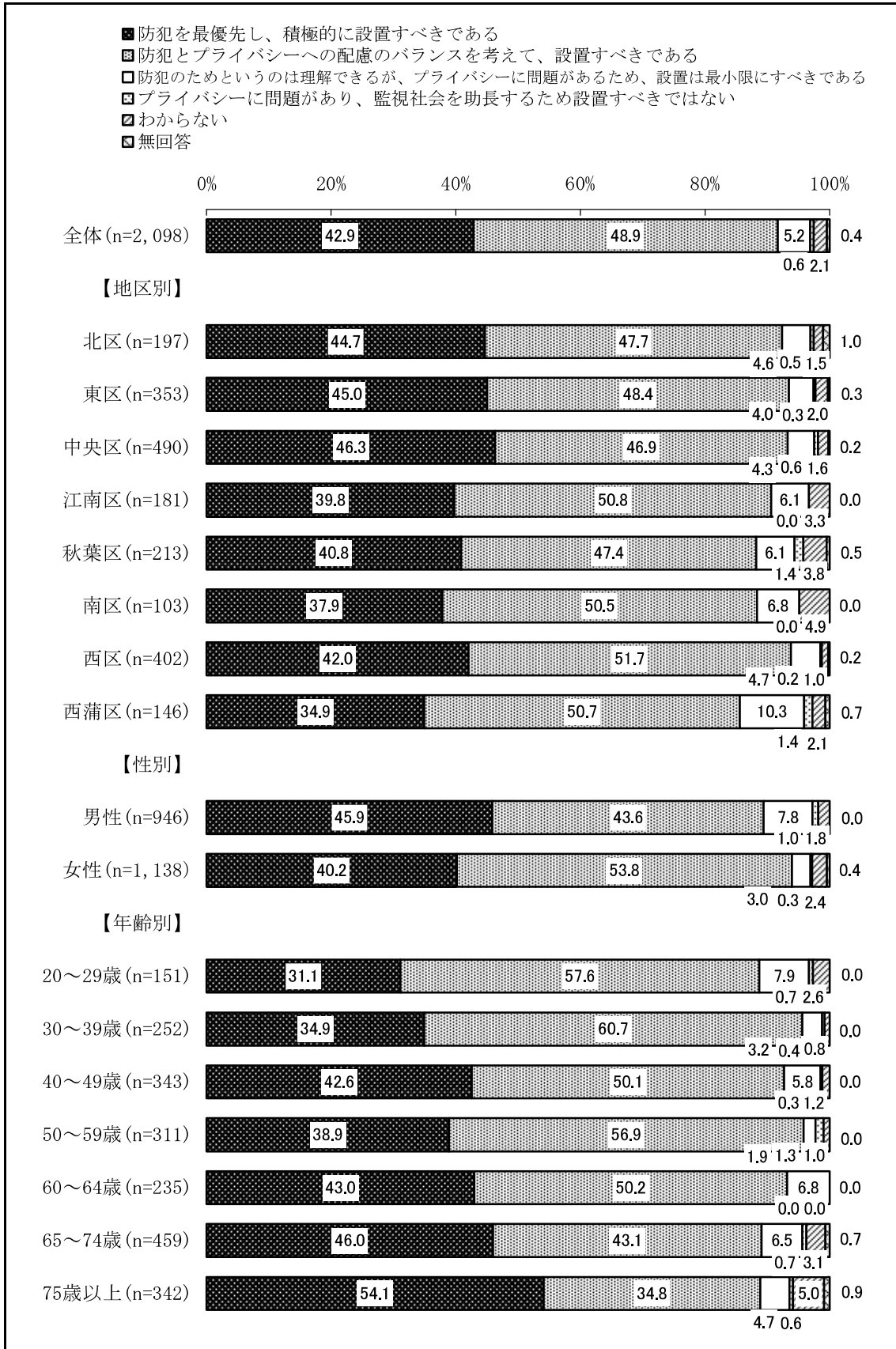
「防犯とプライバシーへの配慮のバランスを考慮して、設置すべきである」の割合は、女性（53.8%）の方が男性（43.6%）よりも高く、「防犯を最優先し、積極的に設置すべきである」の割合は、男性（45.9%）の方が女性（40.2%）よりも高くなっている。

③年齢別

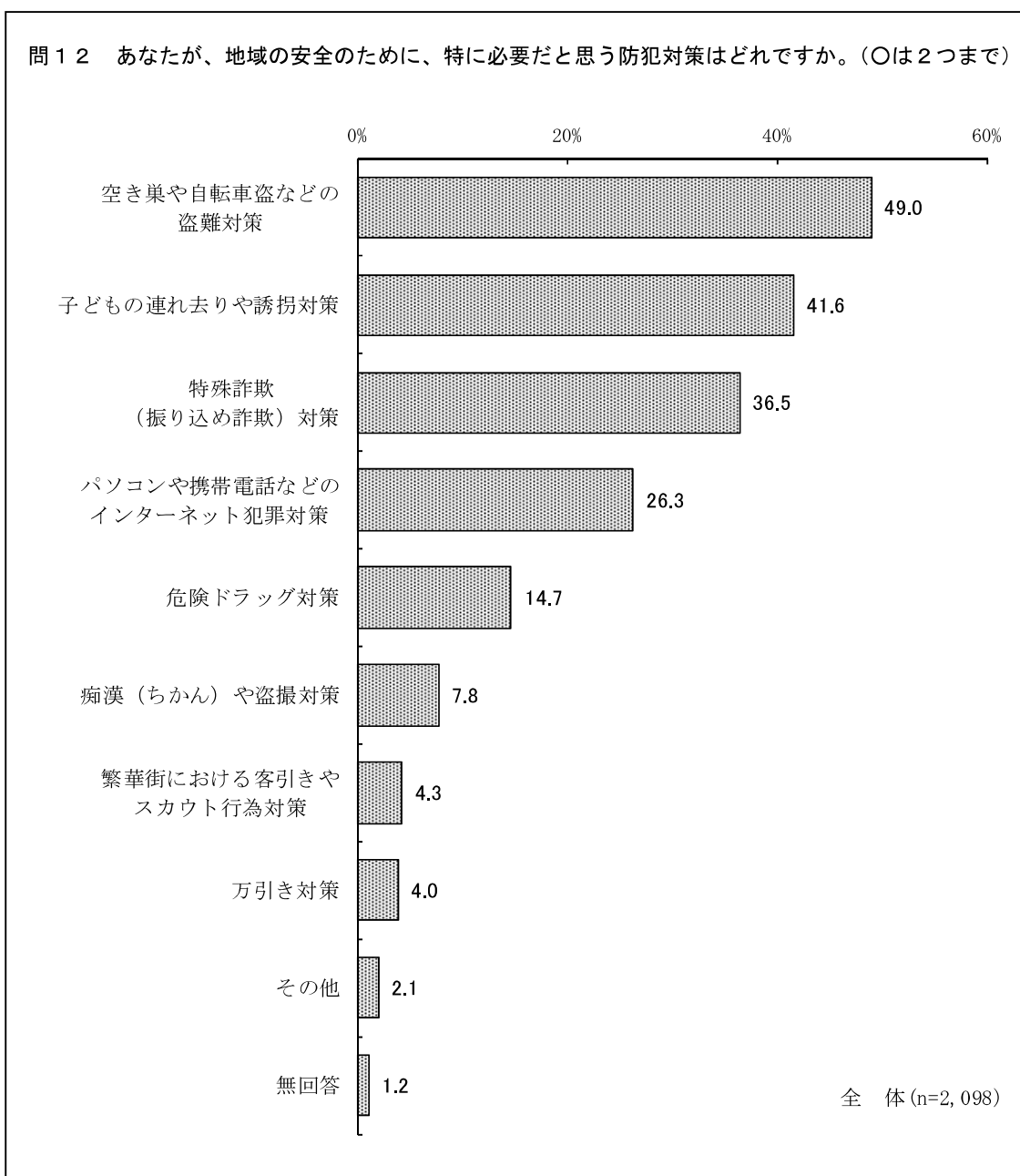
「防犯とプライバシーへの配慮のバランスを考慮して、設置すべきである」の割合は、30代以下で6割前後と高く、75歳以上（34.8%）で低くなっている。

「防犯を最優先し、積極的に設置すべきである」の割合は、75歳以上（54.1%）が目立って高く、30代以下では3割程度にとどまっている。

図1-4 「防犯カメラ」の設置についての考え



(5) 地域の安全のために必要と思われる防犯対策



「空き巣や自転車盗などの盗難対策」が半数弱

【全体結果】

地域の安全のために必要と思われる防犯対策（複数回答）については、「空き巣や自転車盗などの盗難対策」(49.0%)の割合が最も高く、「子どもの連れ去りや誘拐対策」(41.6%)が次いで高い。以下、「特殊詐欺（振り込め詐欺）対策」(36.5%)、「パソコンや携帯電話などのインターネット犯罪対策」(26.3%)、「危険ドラッグ対策」(14.7%)が続いている。

【属性別結果】（図 1-5 参照）

①地区別

全体結果で最も割合の高かった「空き巣や自転車盗などの盗難対策」については、北区（54.8%）と西蒲区（58.2%）の割合が高くなっている。

②性別

「子どもの連れ去りや誘拐対策」の割合は、女性（45.3%）の方が男性（37.7%）よりも高くなっている。

③年齢別

「痴漢（ちかん）や盗撮対策」、「繁華街における客引きやスカウト行為対策」は20代（それぞれ13.2%、9.3%）が、「子どもの連れ去りや誘拐対策」は30代（73.4%）が、「空き巣や自転車盗などの盗難対策」「パソコンや携帯電話などのインターネット犯罪対策」は50代（それぞれ55.0%、33.1%）が、「特殊詐欺（振り込め詐欺）対策」は75歳以上（53.5%）の割合が、それぞれ高くなっている。

図 1-5 地域の安全のために必要と思われる防犯対策 1/2

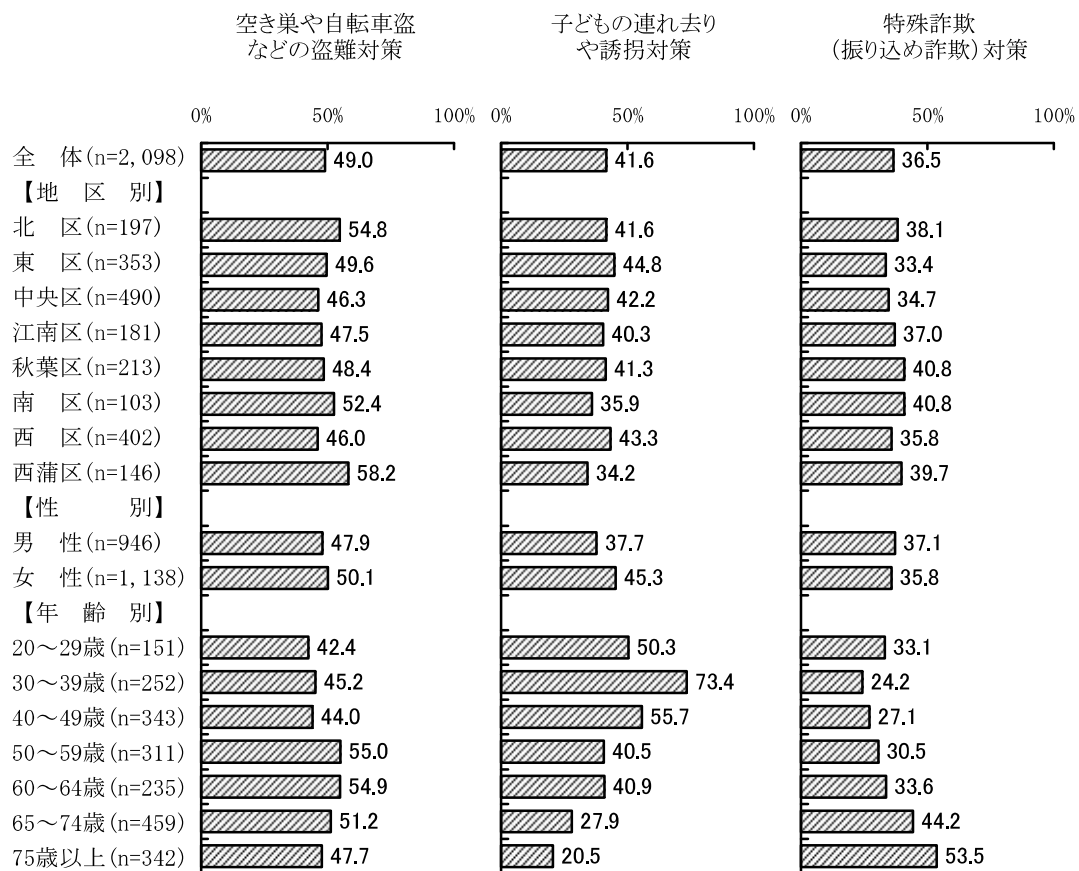
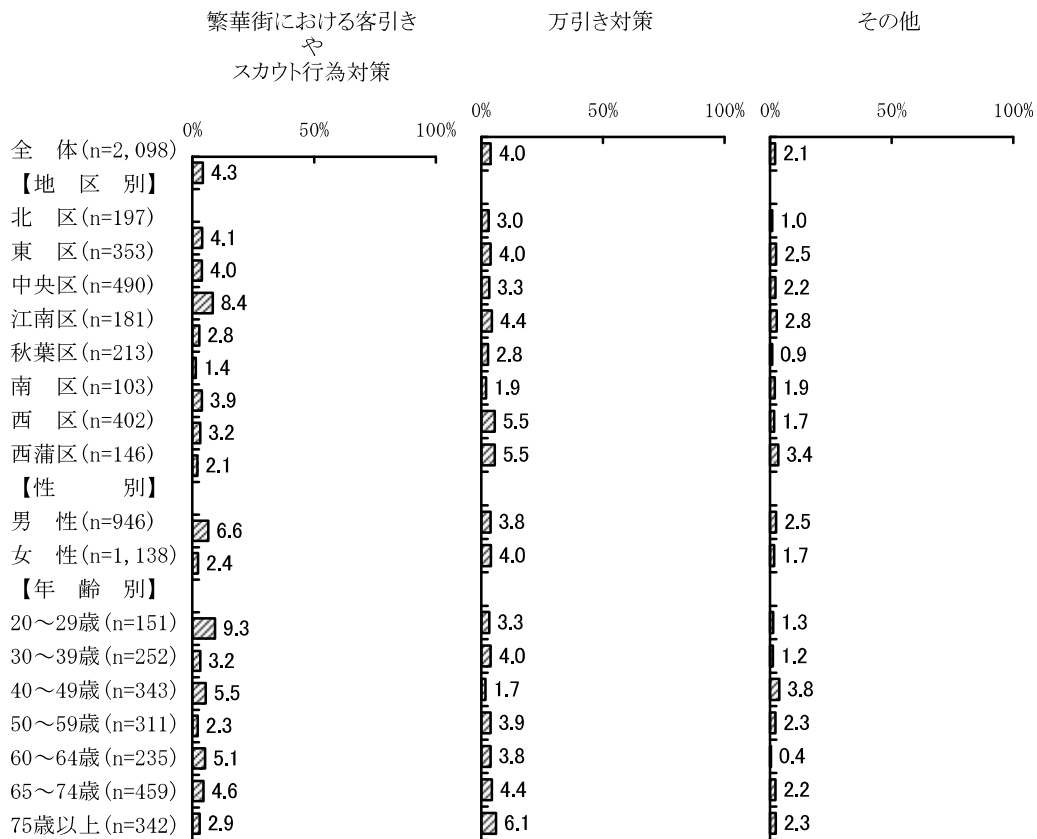
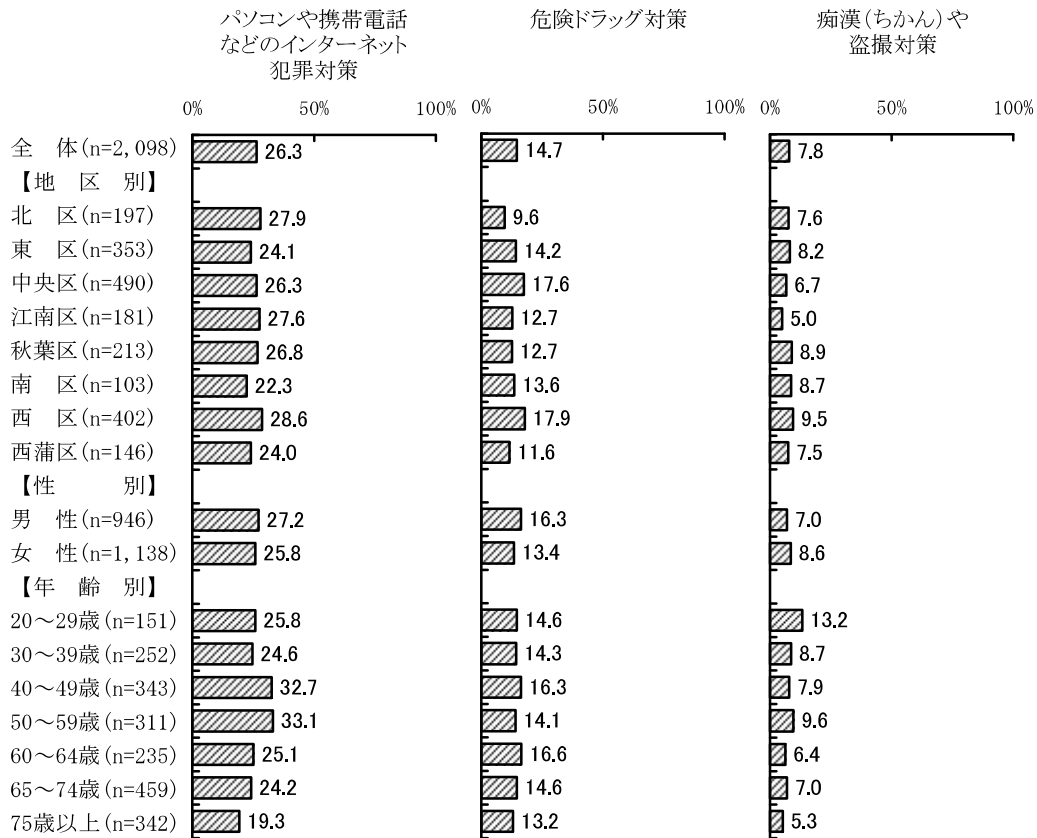
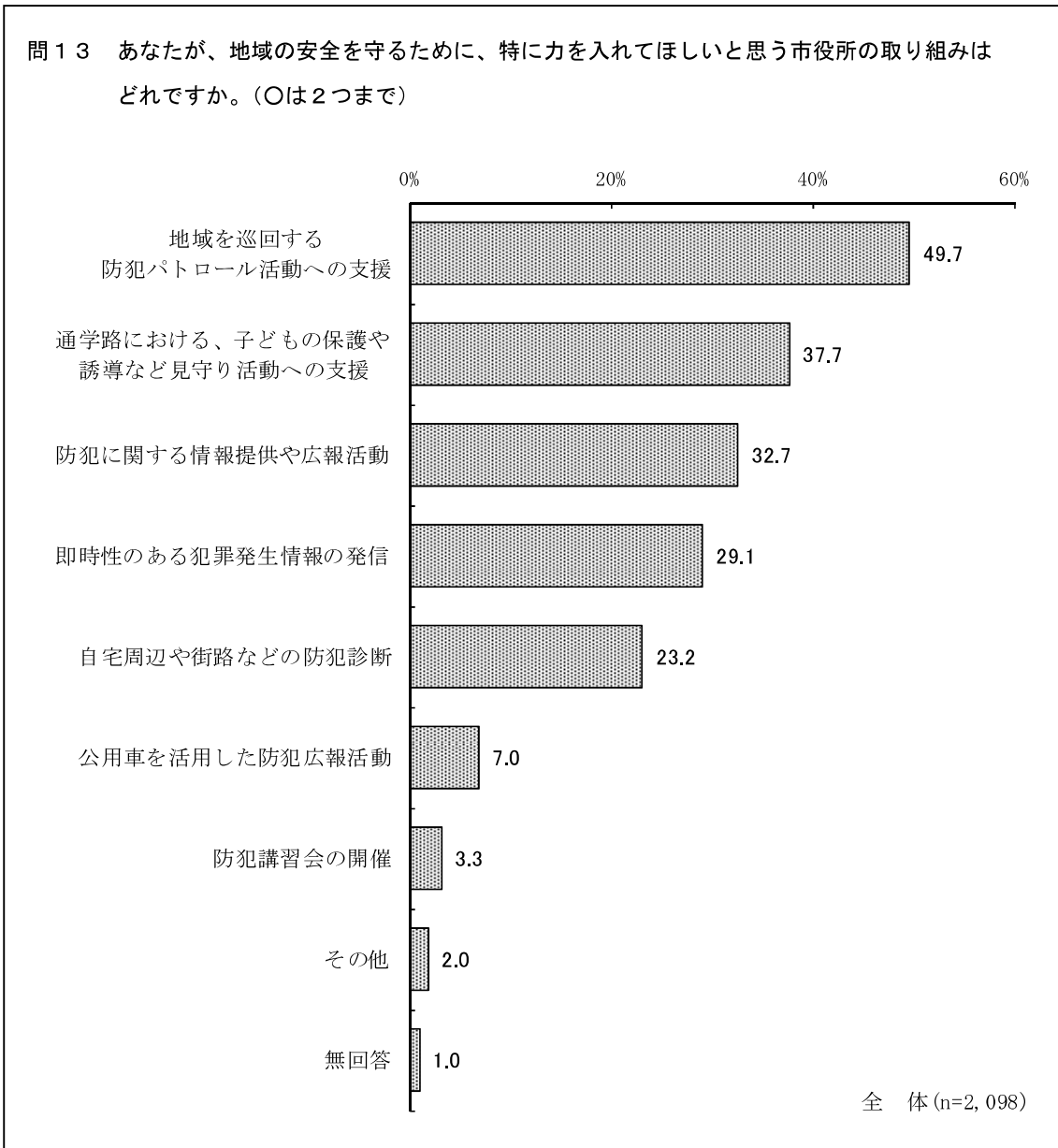


図1-5 地域の安全のために必要と思われる防犯対策 2/2



(6) 地域の安全を守るために特に力を入れてほしい市の取り組み



——— 「地域を巡回する防犯パトロール活動への支援」が5割弱 ———

【全体結果】

地域の安全を守るために特に力を入れてほしい市の取り組み(複数回答)については、「地域を巡回する防犯パトロール活動への支援」(49.7%)が最も高くなっている。以下、「通学路における、子どもの保護や誘導など見守り活動への支援」(37.7%)と「防犯に関する情報提供や広報活動」(32.7%)が3割台、「即時性のある犯罪発生情報の発信」(29.1%)と「自宅周辺や街路などの防犯診断」(23.2%)が2割台で続いている。

【属性別結果】（図 1-6 参照）

①地区別

全体結果で最も割合の高かった「地域を巡回する防犯パトロール活動への支援」については、中央区（53.7%）の割合が高くなっている。

②性別

「防犯に関する情報提供や広報活動」の割合は、男性（36.6%）の方が女性（29.6%）よりも高くなっている。

③年齢別

「通学路における、子どもの保護や誘導などの見守り活動への支援」は30代（57.1%）が、「即時性のある犯罪発生情報の発信」は40代（34.7%）が、「自宅周辺や街路などの防犯診断」は75歳以上（29.5%）の割合が、それぞれ高くなっている。

図 1-6 地域の安全を守るために特に力を入れてほしい市の取り組み 1/2

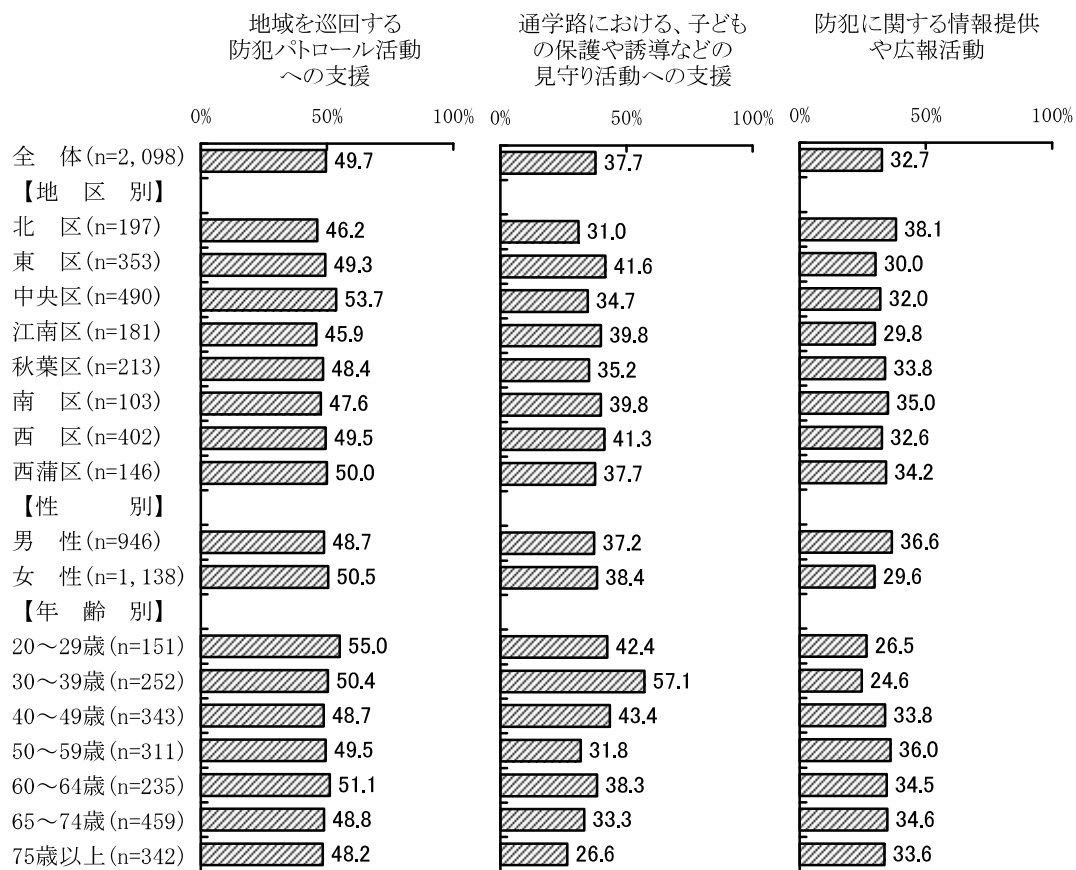
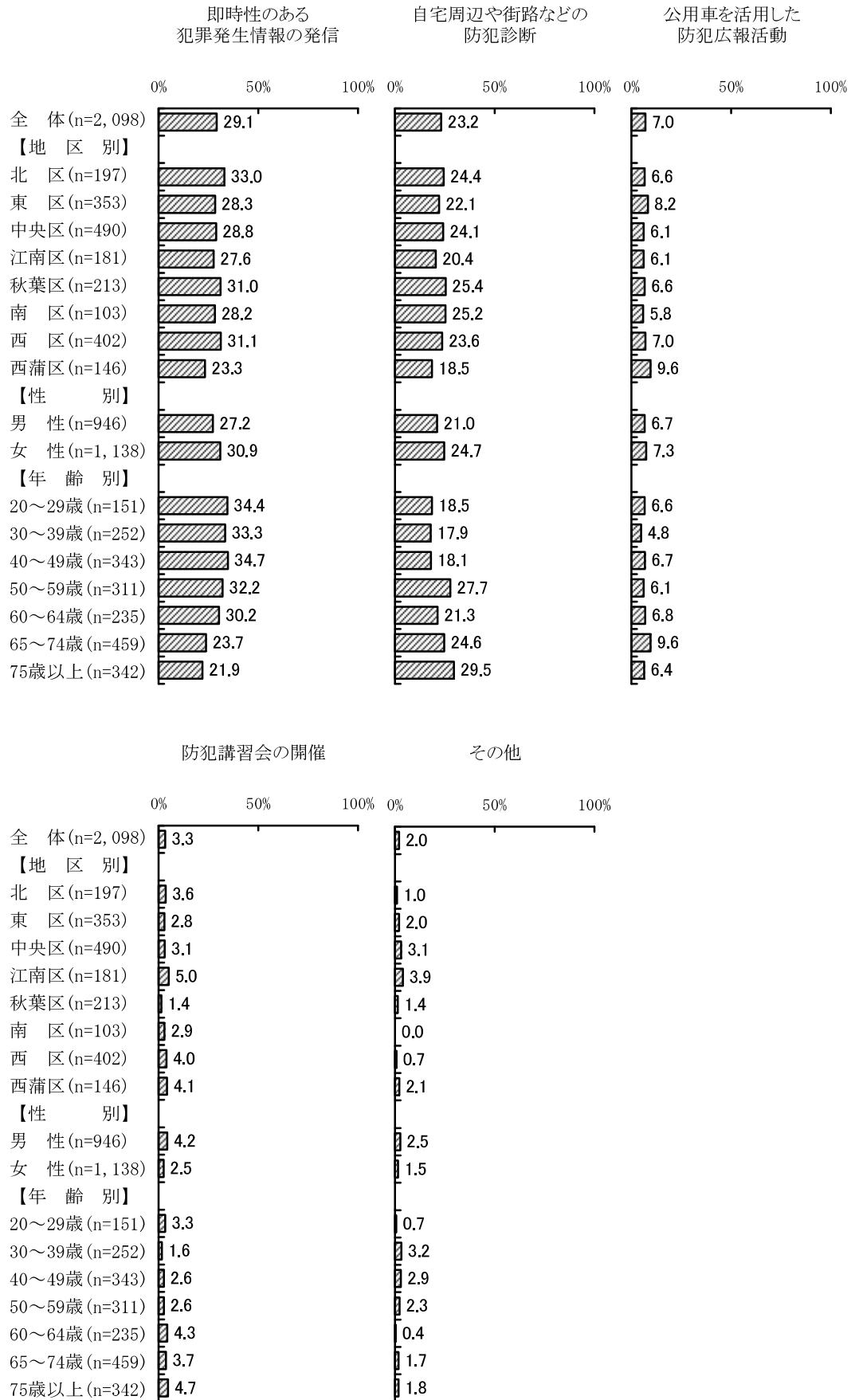
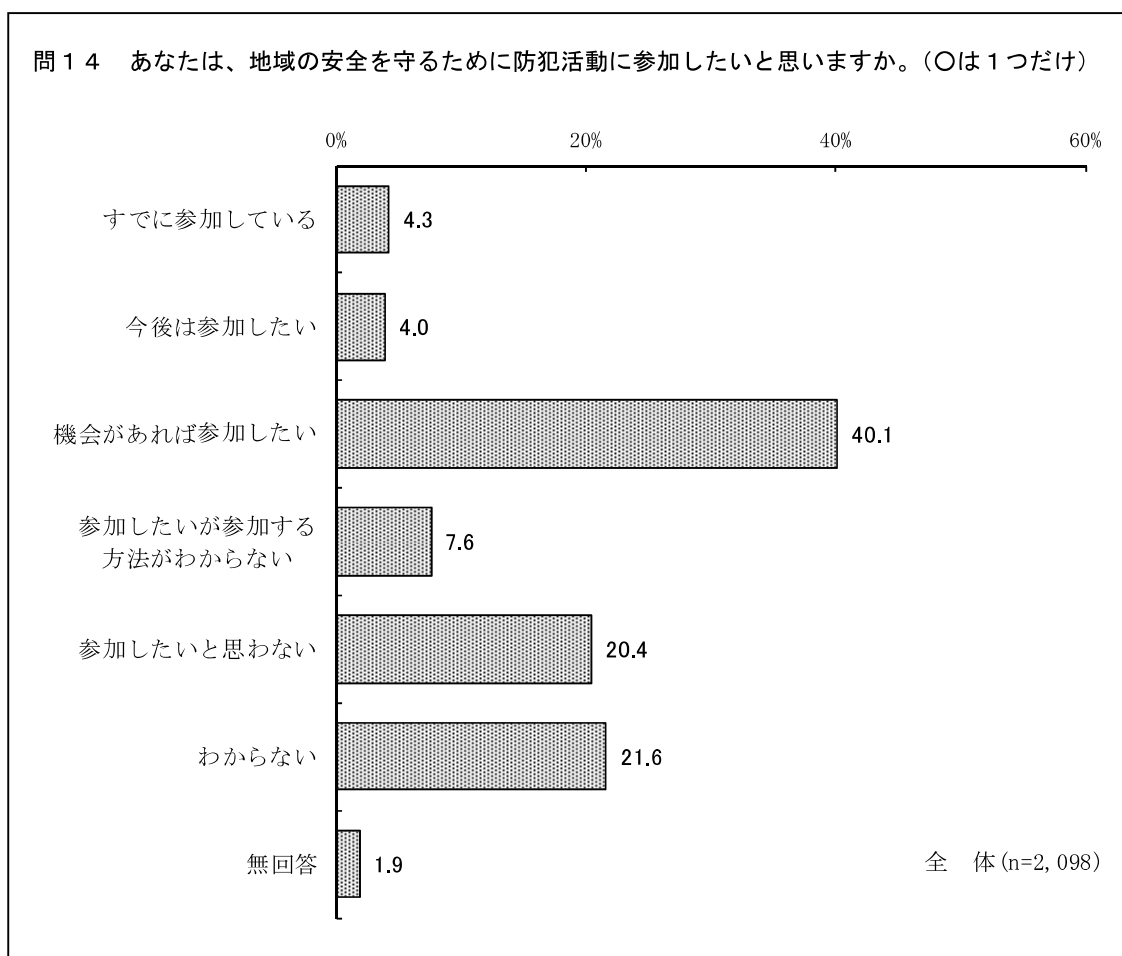


図1-6 地域の安全を守るために特に力を入れてほしい市の取り組み 2/2



(7) 地域の安全を守るための防犯活動への参加意向



地域の防犯活動へ「参加している・参加したい」は5割強

【全体結果】

地域の安全を守るための防犯活動への参加意向については、「すでに参加している」が4.3%、「今後は参加したい」が4.0%、「機会があれば参加したい」が最も高く4割(40.1%)を占め、「参加したいが参加する方法がわからない」が7.6%である。これらの「参加している・参加したい」計で5割強(56.0%)を占めている。

一方で、「参加したいとは思わない」はおよそ5人に1人の割合(20.4%)でみられる。また、参加したいかどうかについて「わからない」が2割強(21.6%)となっている。

【属性別結果】（図 1-7 参照）

①地区別

「今後は参加したい」では、南区（9.7%）の割合が高く、「参加している・参加したい」計でも南区（59.2%）が6割弱を占めている。

②性別

「参加している・参加したい」計の割合は、男性（62.0%）の方が女性（51.3%）よりも高くなっている。

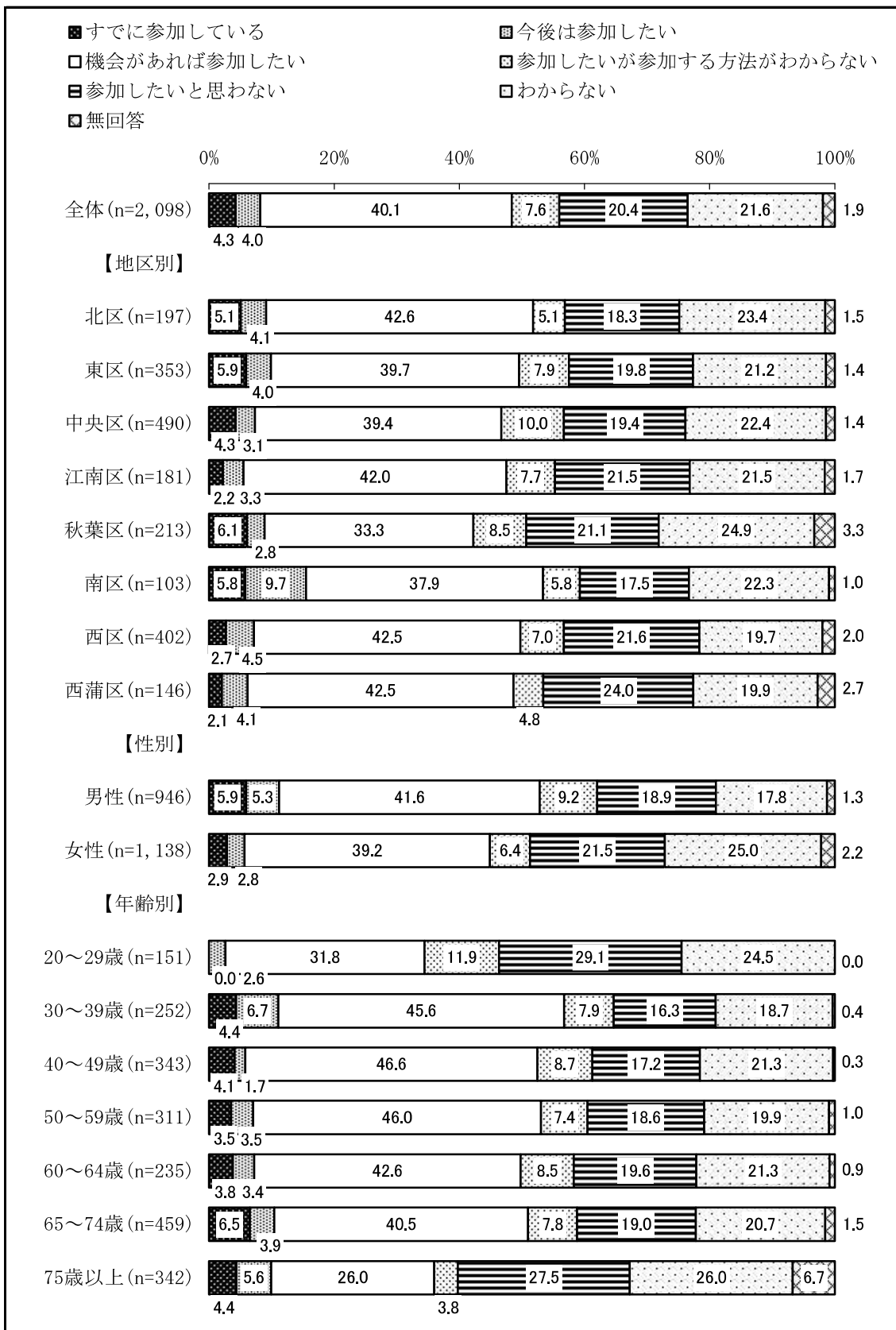
「わからない」の割合は、女性（25.0%）の方が男性（17.8%）よりも高くなっている。

③年齢別

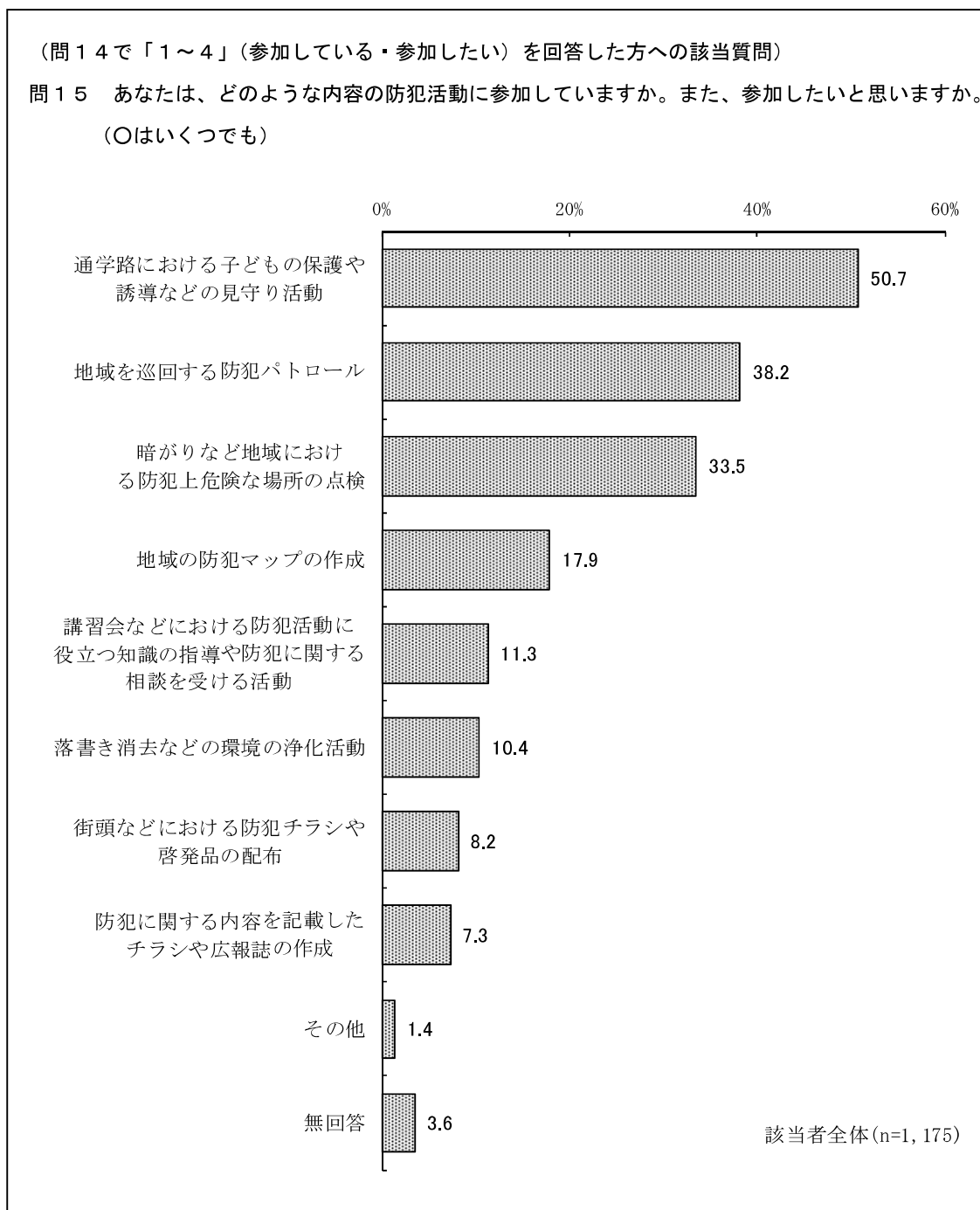
「機会があれば参加したい」の割合は、30代（45.6%）、40代（46.6%）、50代（46.0%）で高く、「参加している・参加したい」計の割合でも6割を超えている。

一方、「参加したいと思わない」の割合は、20代（29.1%）と75歳以上（27.5%）が高く、3割弱を占めている。

図1-7 地域の安全を守るための防犯活動への参加意向（地区別／性別／年齢別）



(8) 参加している・参加したい防犯活動



— 「通学路における子供の保護や誘導などの見守り活動」が最も多い —

問14で、「1～4」(参加している・参加したい)を回答した1,175人に対する質問である。

【全体結果】

参加している、または参加したいと思う地域の防犯活動(複数回答)については、「通学

路における子どもの保護や誘導などの見守り活動」(50.7%)の割合が最も高い。以下、「地域を巡回する防犯パトロール」(38.2%)、「暗がりなど地域における防犯上危険な場所の点検」(33.5%)が3割台で続き、上位を構成している。

【属性別結果】(図 1-8 参照)

①地区別

全体結果で最も割合の高かった「通学路における子どもの保護や誘導などの見守り活動」については、北区(56.3%)が最も高く6割弱となっている。

「地域を巡回する防犯パトロール」と「街頭などにおける防犯チラシや啓発品の配布」は南区(それぞれ44.3%、14.8%)で、「暗がりなど地域における防犯上危険な場所の点検」と「講習会などにおける防犯活動に役立つ知識の指導や防犯に関する相談を受ける活動」は江南区(それぞれ42.0%、20.0%)で最も割合が高くなっている。

②性別

「通学路における子どもの保護や誘導などの見守り活動」の割合は、女性(55.1%)の方が男性(46.7%)よりも高く、「地域を巡回する防犯パトロール」の割合は、男性(47.9%)の方が女性(28.4%)よりも高くなっている。

③年齢別

「通学路における子どもの保護や誘導などの見守り活動」の割合は、30代(63.8%)で、「地域を巡回する防犯パトロール」の割合は60~64歳(48.9%)が高くなっている。

また、20代では「地域の防犯マップの作成」(24.3%)と「講習会などにおける防犯活動に役立つ知識の指導や防犯に関する相談を受ける活動」「落書き消去などの環境の浄化活動」(いずれも17.1%)の割合が高くなっている。

図1-8 参加している・参加したい防犯活動（地区別／性別／年齢別） 1/2

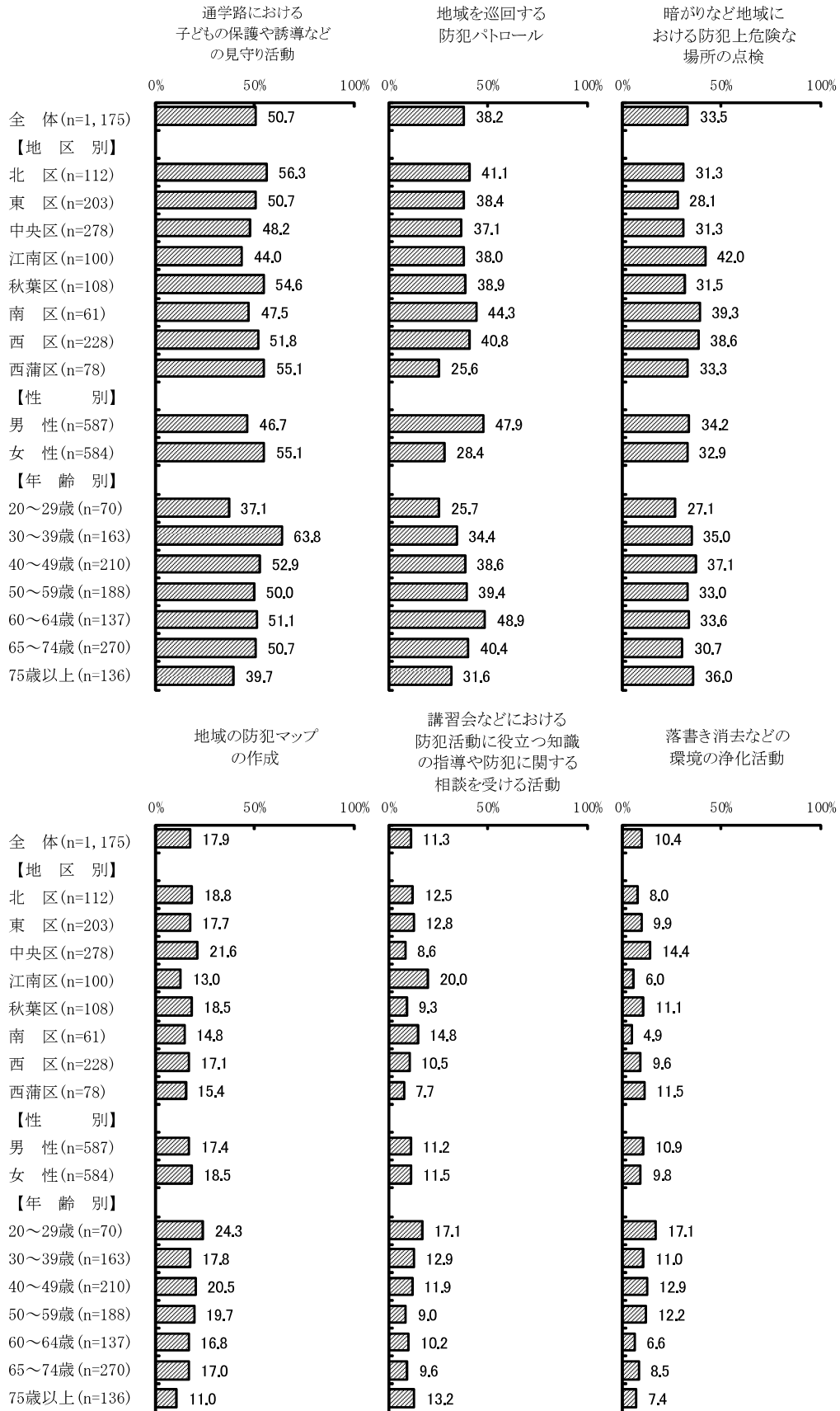


図1-8 参加している・参加したい防犯活動（地区別／性別／年齢別） 2/2

